

2002年度秋季大会の報告

日本気象学会2002年度秋季大会は、北海道大学学術交流会館・百年記念会館（札幌市北区北8条西5丁目）を会場として2002年10月9日（水）～11日（金）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は647名（一般会員379名、学生会員178名、非会員90名）であった。

2日目午後には、北海道大学学術交流会館講堂において山本・正野論文賞が竹村俊彦会員と高谷康太郎会員に、堀内賞が河村公隆会員と林田佐智子会員に、日本気象学会奨励賞が大沼啓人会員、上口弘晃会員、平松和彦会員および森岩 聡会員にそれぞれ授与された。授賞式のあと、廣田 勇理事長による「ベルリン現象から50年—突然昇温研究の現代的意義—」と題した学術講演があり、続いて山本・正野論文賞及び堀内

賞の受賞記念講演が行われた。引き続き、大会シンポジウム「環オホーツク研究の新しい視点」が行われた。

一般講演の発表申込み件数は431件で、その内訳は口頭発表が305件、ポスター発表が126件であった。

会期中およびその前日と翌日には、個別のテーマによる研究会や講演会が4件開かれた。

最後に、今大会事務局として大会準備・運営にご尽力頂いた札幌管区气象台、北海道大学低温科学研究所、北海道大学大学院地球環境科学研究科、北海道大学大学院理学研究科、(財)日本気象協会北海道支社、(株)札幌総合情報センターをはじめとする北海道支部の皆様深く感謝の意を表します。

2002年12月 講演企画委員会